

学生は何故博士論文を仕上げるできないのか。

日本の大学院の学生は何故博士論文を書くことができないのかといいますと、日本の大学院の学生は自分の知らないことを書こうとしたり、難しい言葉を使って難しいことを書こうとしたり、難しい漢字を使っていないと博士論文らしくないと思っていることが原因として挙げられます。自分の知らないことを書こうとするから、途中で書いていることが分からなくなり、なかなか進めることができないのです。他人の論文を引用したり、他人の本を丸写ししたりするのではなく、自分の知っていること、現在一番本人がやっていることを書いた方が良いのですが、どうしても他人の論文などを参考に自分の知らないことを難しく書こうとしてしまうのです。そうやって書いていくと進めていくうちに知らないことばかりになって証明できなくなり、行き詰まって博士論文が書けなくなってしまうのです。自分の知らないことを書こうとしている訳ですから満期退学となってしまいます。

実は私もアメリカのフォーダム大学の大学院で博士論文を書こうとした際、自分の書こうと思う論文に関連しそうな他人の博士論文を50冊ほどちょっと積みあがるくらい集めてそれを参考にして書こうと思ったことがあるのですが、様々な学説があり教授によって書いていることも違うので、却って混乱するだけであまり役には立ちませんでした。結局、私は自分が一番よく知っていることを書くことにしました。私の場合はフォーダムの教育学経営管理学科に所属していたので、日本で専門学校を経営していたため、自分自身が経験して知っている自分の専門学校の経営方法のことを基に博士論文を仕上げました。入学者定員が何人か、その時の入学試験はどのようなものか、毎日授業に使う教科書は、どのように授業を展開し、どうやって学生の学力を上げさせるか、学生の満足度はどうか、卒業後就職はできるか、どんな職種か等、英会話を教えていたので、どのように教えるか、例えばクラッシュ先生の理論で英語を音楽のように流して聞いて英語の流れる環境を日本で作り、習うより慣れる訓練をすとか等、専門学校を経営していたので必死に努力していたこと等他の人には経験できないことを書きました。自分のよく知っていることをベースにして、そこを深く掘り下げていき、他の研究者の学説も引用して自分の主張を裏付けていく、そうやって論文を書き上げていったのです。もちろん博士論文ですから、非常に大変ではありました。論文の体裁や文章はものすごく直しましたが、肝心の内容の部分は自分の知っていることを書くのですから、何を書いて良いか分からないということはなく、無事に書き上げ、博士を取得することができました。

学生が博士論文を書く際、他人の論文を見て、これは良いのではないかとあってそれに類似するような文章を作成したりするのはもちろん駄目で、自分だけが知っていることを基本的に書いて、他人の書いた学説や文章も引用してそれを裏付けていく、それも分かりやすい文章で。そうすれば、博士論文を作成することができるのです。

先日私のところに相談に来た女子学生は、自分が良く分かっていないことを無理に書こうとしていました。自分の知らないことを無理やり、論理的に書こうとするものですから、

書ける訳がないのです。途中までは何とか書けたとしても、途中で行き詰まってしまうのです。その学生には先ほど書いたように、自分の知っていることのみ、最も興味のあることを深く掘り下げ、順序だてて文章を構成するようにアドバイスしてあげました。

実は昨年も、私の学校（東京福祉大学大学院）で博士課程に在籍していた5人の学生に私が指導したことがありました。長年博士課程に在籍していたものの博士論文が書けずに挫折しかかっていた学生たちを私自身が指導してみたのです。その学生たちに聞いてみると、やはり予想通り、難しい、自分の知らないことを書こうとしているのです。修士を取得し、入学試験をクリアして一定の能力は持っている学生たちが、10年近くも在籍していても書きあがらないはそのせいです。

何故難しく書こうとするのか尋ねてみますと、「難しい方が高尚だから。」とか「難しい方がアカデミックに見える。」といった答えが返ってきました。分かりやすく書いてはいけない、分かりやすい文章は博士論文らしくなく、安っぽいと思っていたようです。こうした考えを持ち続けて、難しい文章を書こう書こうとして、段々と自分の書いていること、書こうとしていることがわからなくなってしまい、結局博士論文が完成しないのです。

指導教員もまた学生がこのような状況になり、行き詰っていても、きちっとした指導ができなかったようです。学生に対し、どういった理論建てをしてどのように書いていけばよいのか、具体的に指導をすれば良いのですが、指導教授それぞれが、思い思いに色々なことを言うだけなので、学生はますます混乱し、博士論文が書けなくなってしまっていたのです。

博士論文をどう書けば良いのか分からない学生に対し、教授がきちっと指導できない訳ですから、博士論文が仕上がるはずはありません。

最終的に昨年私が指導した5人の学生たちは、私の指導を受けると目から鱗が取れたようで、博士論文を書き上げて、新発見をして全員が博士の学位を取得でき、大変喜んでいました。

学生たちが、博士論文は難しいことを書かなければならない、あるいはカッコをつけて書かないと、と思っている思い込みを無くして、素直な博士論文の書き方をしっかり指導してあげることが指導教授には必要であると私は思います。